



りんご ハダニ類の多発 要警戒！

1951 年統計観測史上最速で 6/29 に関東甲信地方が梅雨明けました。その後の 4 日連続の猛暑日や 7 月上旬の豪雨等過去に経験したことがない異常天候が続きました。来週以降も高温状態が続く予報が出ています。この状況下ではりんごの天敵である「ハダニ類」の早期多発が心配されます。限りある殺ダニ剤を効果的に使いハダニ防除を進めてください。詳しくは下記を参考にしてください。

【気象特記】

- 梅雨明け：6/29 ＊史上最速！平年より何と 22 日早い！
- 異常高温：6/29～7/22 ＊4 日連続猛暑日・6/30 35.9℃、7/1 35.8℃等
- 豪雨：7/5 80.0 mm（長丘）⇒ 7 月上旬の合計降水量は 100 mmに到達(平年比 143%)
- 強風：7/5 15.6m ⇒ りんご・西洋梨等で落果被害あり
- 日焼け果多発 ⇒ 極端な土壌乾燥後の豪雨で重度の日焼け多発！⇒ 過度な夏季管理は控える

殺ダニ剤ローテーション 2018【基本パターン】

- ➡ 7 月中旬（7/15～20 頃）：ダニコングフロアブル ⇒ 中期的抑制効果あり・残効 14 日程度
 - ➡ 8 月上旬（8/1～5 頃）：コロマイト乳剤 1,000 倍 ⇒ 速効的・成虫に効果高い・残効短い
 - ➡ 8 月中旬（8/15～20 頃）：オマイト水和剤 750 倍 ⇒ 成虫に効果あり・残効やや短い
- ① ダニサラバ・スターマイト・ダニコングは同一薬剤系統である。抵抗性回避のため、いずれかを年 1 回のみ使用とする。
- ② ダニコング F は成虫に対してやや遅効的效果を示す。散布 7 日後以降に効果が発現する。

殺ダニ剤散布パターン

散布時期	基本	パターン①	パターン②	パターン③	パターン④
6 月中旬	—	ダニゲッター F	—	—	—
7 月上旬	—	—	ダニゲッター F	ダニコング F	ダニコング F
7 月中旬	ダニコング F	ダニコング F	ダニコング F	ダニゲッター F	コロマイト
8 月上旬	コロマイト	コロマイト	コロマイト	コロマイト	ダニゲッター F
8 月中旬	オマイト	オマイト	オマイト	オマイト	オマイト

- ➡ パターン①：6 月中（下）旬にダニゲッター F 散布 ⇒ 7 月中旬以降は基本パターン同様
- ➡ パターン②：7 月上旬にダニゲッター F ⇒ 7 月中旬以降は基本パターン同様
- ➡ パターン③：7 月上旬にダニコング F を繰り返し散布 ⇒ 7 月中旬に異系統のダニゲッター F を散布し、8 月は基本同様
- ➡ パターン④：7 月上旬にダニコング F を繰り返し散布 ⇒ 7 月中旬に成虫に即効性の効果あるコロマイトを散布し、8 月上旬にダニゲッター F ・8 月下旬にオマイトを散布

【もも生産者大会開催される！】

去る 7/9 に部会主催のもも生産者大会が平岡共選所で 60 名超えの参加を得て開催されました。生産概況・収穫予想・販売方針・市場意見交換会・特別研修会と内容が多岐にわたりました。

市場側からは、「今年の桃の出荷進度は早い。どの産地も昨年比 1 週間程度前進出荷となっている。」「中野市産の陽だまりももの引き合いが非常に強い。」等の報告・意見等が出されました。

研修会は、「桃が枯れるのはなぜか？」（果樹試験場岡沢様）、「高品質な桃作り」（長野市北村文治様）、「全国モモ研究大会 2018in 和歌山参加報告」（園芸課原澤）の 3 つをテーマに約 1 時間みっちりで行われました。特に「もも凍害発生」の研修では、これまで主な原因とされてきた気象要因（冬季の低温遭遇）に加え、台木の種類で凍害発生程度に差があることが講師から報告されました。部会・JA としても、もも苗木の台木をオハツ台から凍害に遭遇しにくいとされる「払子台」や「野性台」へ切り替え、凍害対策の強化を図っていく方針が確認されました。尚、この秋には部会・JA 共同養成の払子台付きなつつこ苗木の注文を取りまとめます。この機会に積極的な導入をお願いします。

【真夏のりんご黒星病対策】

黒星病の感染は、真夏（7～8 月）は一旦停滞しますが、秋に再び活発化します。現地には、5 月末頃に感染したと見られる新梢先端の 2～3 枚目の葉に病斑が散見されます。秋の感染は次年度の『黒星病の源』になります。新梢葉先端の被害が多い場合は、秋の薬剤散布を徹底してください。詳しくは後日配布の果樹特報等のなかでお繋ぎしていきます。多発園では夏季の間にできる対策は徹底して頂くようお願いいたします。詳細は下記へ↓

- ① ひどい被害果は仕上げ摘果で除去する
- ② 被害葉を早めに除去し、園外へ持ち出し、焼却・土中埋没・攪拌等の処理する
- ③ 被害落葉はできるだけ拾い集めて、焼却・土中埋没・攪拌等の処理する
- ④ 次年度向けて薬液の通りやすい環境を整備（徒長枝除去等）



← 黒星病葉病斑（新梢先端）
薄茶色の斑点が葉表に発生。
被害葉が多発している場合は秋の感染の病源となる。
できるだけ摘み取り、園外へ持ち出し、埋没処理等を行う。

【部会主催 秋のりんご研修視察 2018 開催のご案内】

10 月下旬に『群馬県りんご優良園地・直売所』の視察研修会を計画しています。群馬県のりんご品種といえば、最近市場評価がうなぎ上りの『ぐんま名月』が有名ですが、去年は全国リンゴ研究大会が開催され、これまで群馬限定生産であった早生種「おぜの紅」を県外生産可能にする等、何かと注目を集めている産地でもあります。また、関東消費者向けの直売所等も見どころの一つです。9 月に視察研修会のご案内を通知します。帰りのバス内ではお楽しみ懇親会予定しています。部会員の交流を含めて多数の参加を心よりお待ちしております。